

学校点描

これまで延期してきた学校行事を
どうするか、いよいよ決断の時を迎
えています。

《K中学校》

NO.8 R2. 7. 21

担当：校長

15日は、地区総体、吹奏楽発表会の壮行式でした。前日まで、各部活動の練習後に壮行式の練習をしていたのにもかかわらず、雨の影響で外ではできませんでした。「やりたかったな」とつぶやく生徒もいました。結局、校内放送での挨拶となりました。仕事の合間を縫ってSPTA会長さんも来校してくださり、全校生徒に激励の言葉を送ってくれました。

家族青春時代

雨のことも考えて、各部活動からは事前に決意表明をビデオで撮影し、各クラスの電子黒板で映像を流します。恥じらう1年生とは対照的に、堂々と3年生が決意を語っている姿から、2年半の成長を感じずにはられません。SPTA会長さんが、「各部活動のビデオを見たいという保護者がいるんだ」と教えてくれました。なんだか画面の中のユニフォーム姿の生徒の後ろに、それを支えてきた保護者の姿を感じます。各部の発表が終わるたびに、全学級の教室から温かい拍手が送られていました。



家に帰ると、娘の大学からようやく卒業アルバムが送られていました。新型コロナの影響で、例年より遅く配達されたみたいです。でも、本人は医療系の大学を卒業して、もうすっかり病院勤務に慣れています。卒業アルバムが送られてきたことをメールで伝えても、当の本人にとって、大学時代は遠い過去という感じみたいです。本人に変わってアルバムを見ながら、わたしは、今となっては遠くなった昔を思い出すのです。

わたしの町内には、毎年、小学生による地区対抗リレー大会があります。あまり子どもの数が多くない町内なので、ほとんど全員が選手。へたをすると、小学校2年生が3年生の区間を走らないといけないということもあるのです。

ある日家に帰ると、テーブルの上に、小学生の娘からの手紙が置いてありました。“明日の朝6時に起こして下さい”

翌朝、言われたとおりに朝起こすと、「リレー大会の練習付き合っ！普通の徒競走なら転んでも自分だけの問題だけど、リレーはみんなに迷惑かかるから」と言って、リレー練習につき合わせられました。おかげで、それからの数週間は、朝からダッシュとバトンパスの繰り返しです。体の節々が痛くて、仕事にならなかった思い出が蘇ります。

古来、中国では季節を四つの色にたとえてきたそうです。春は青、夏は朱（赤）、秋は白、冬は玄（黒）。この例えは、人生を表わす比喩にも用いられてきたのです。ここから「青春 朱夏 白秋 玄冬」の言葉が生まれたという話です。“青春”は、有名ですが、他はあまり聞き慣れません。詩人の北原白秋の名前くらいでしょうか。

わたしは、家庭、家庭ごとに、青春時代があると思っています。子どもが思春期の時代ではなく、子どものために家族がそれぞれ自分の時間を削っていた時代が『家族青春時代』です。

部活動の遠征や送迎、学校行事への参加、休日はゆっくりしたいものですがつつい子どものためにと、疲れた体にむち打って過ごしていた時代は、家族にとって青春なんです。いよいよ地区総体と吹奏楽発表会が開催されます。いつか振り返ったとき、「あの頃が家族の青春時代だったなあ」と、思い返す時が来るかもしれません。

優勝なんてほど遠い、予選すら通過できないリレー大会の6年間でした。その後は、中学生になり、小さい体で大型の金管楽器チューバを吹く娘の雇われ運転手になりました。コンクール前は、学校からチューバを持ち帰り、友人宅や公園で練習するのですから。その度に、言われるがまま、汗をかきながら楽器を運ぶ手伝い屋です。

今はもう一人暮らしをしながら働く娘からのメールは、ほとんど来ません。

頂いた電動付き自転車で、一生懸命、朝に、夕に、深夜に出勤しているみたいです。

そうやって、いつの間にか、わが家の青春時代は終わったのです。

きりとり

ご意見・ご感想をお願いします。

メールでご意見をいただいても構いません。 Shinyatk1616n@yahoo.co.jp